

森永乳業株式会社 東京工場



みなさん、こんにちは。私は葛飾のごみを減らすために遠いごみゼロの国から来ましたリー（Ree）ちゃんです。今回から始まりました「リーちゃんごみゼロ探検隊」では葛飾区内の様々な場所に出向いて、ごみを減らすために頑張っている人たちに会いに行きます。1回目の今回は、奥戸にある森永乳業株式会社東京工場に来ました。

森永乳業株式会社 東京工場

【住所】葛飾区奥戸 1-29-1

【業種】牛乳や乳製品等の製造

【主な製品】牛乳類(まきばの空)、
乳酸菌飲料(マミー)、
デザート(焼プリン)、
豆腐



東京工場では、2頭の牛さんがお出迎えをしてくれます。
早速ごみ減量の取組みについてお伺いしていきたいと思います。
牛さん、牛さん、工場ではどのような取組みをしているのですか？

モー、モー



リーちゃん、こんにちは。東京工場のごみ減量についてだったら、牛さんに代わって私が紹介しますね。本日はよろしくお願ひします。



お姉さん、こんにちは。
こちらこそよろしくお願ひします。

《リサイクル率 98.8%》



森永乳業株式会社東京工場さんでは、ごみ減量についてさまざまな取り組みがなされているかと思います。私は以前リサイクル率がほぼ100%だと伺ったのですが、このリサイクル率ってなんですか？

リサイクル率というのは、この東京工場から出される1年間のごみの排出総量に対し、リサイクルした量の割合を示しています。2016年度のリサイクル率は98.8%なので、残りの1.2%がごみとして排出されているということになります。



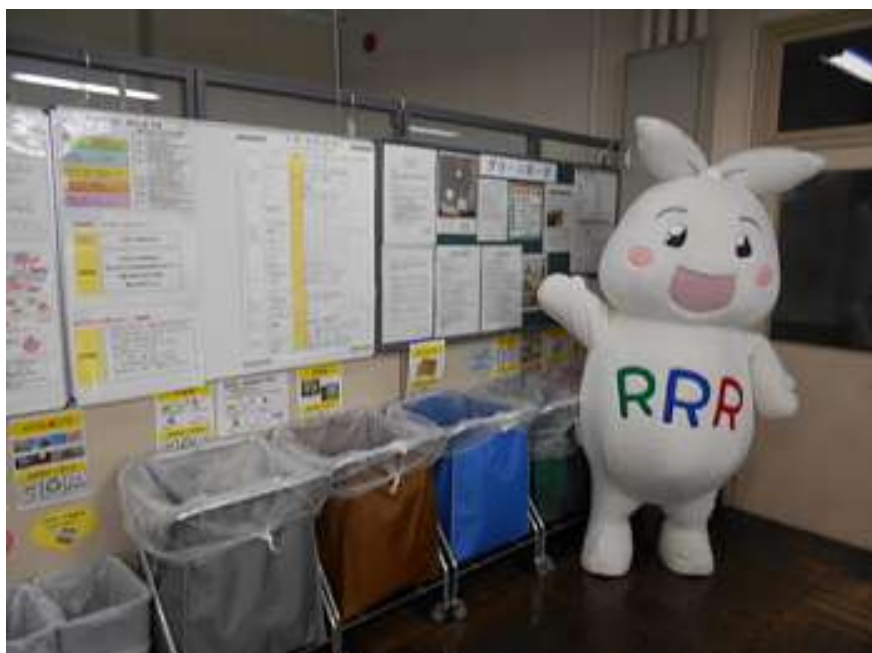
何かしらの形で資源として再生利用されているということですね。ここまでの数値にするには、従業員の方々の協力があってこそだと思うのですが、具体的にどのような取り組みを行っていますか？

そうですね、それではこれから1つずつ取り組みを見ていきましょう。



具体的な取り組み その1 目標を立てる

まず、私たちの工場全体、それと職場ごとに目標を立てています。廃棄物の削減や、リサイクル率の向上、省エネや節水など、従業員全員が同じ意識を持てるようにしています。



りーちゃんが指しているボードに工場の目標などが貼られていて、従業員の皆さんがいつでも見れるようになっています。

具体的な取り組み その2 分別の徹底

ごみになってしまう廃棄物を減らすために大切なことの一つは、正しく分別をすることです。間違った分別方法で捨てられていると、本当であれば資源として使うことができたものがごみになってしまうこともあります。



そうですね。でも工場から出るごみは種類が多そうで、従業員の方が分別を覚えるのはとても大変そうですね。

工場から出るごみは細かく分けると 30 種類にもなり、特にビニール関連が多く、従業員一人ひとりが全てを覚えるのはとても大変です。そこで一つの箱を用意し、分別が分からないものはこちらへ入れてくださいというように案内をしてみました。



なるほど。自分で判断ができないものをその箱へ入れていくのですね。その箱の中に入ったものは誰が分別するのですか？

それは、廃棄物管理担当者が分別をしていました。しかし、やはり自分たちで意識を持って分別していただきたいという思いもあり、別の方法を模索し、現在のフローチャートを使う方法に変更しました。こちらに来てください。

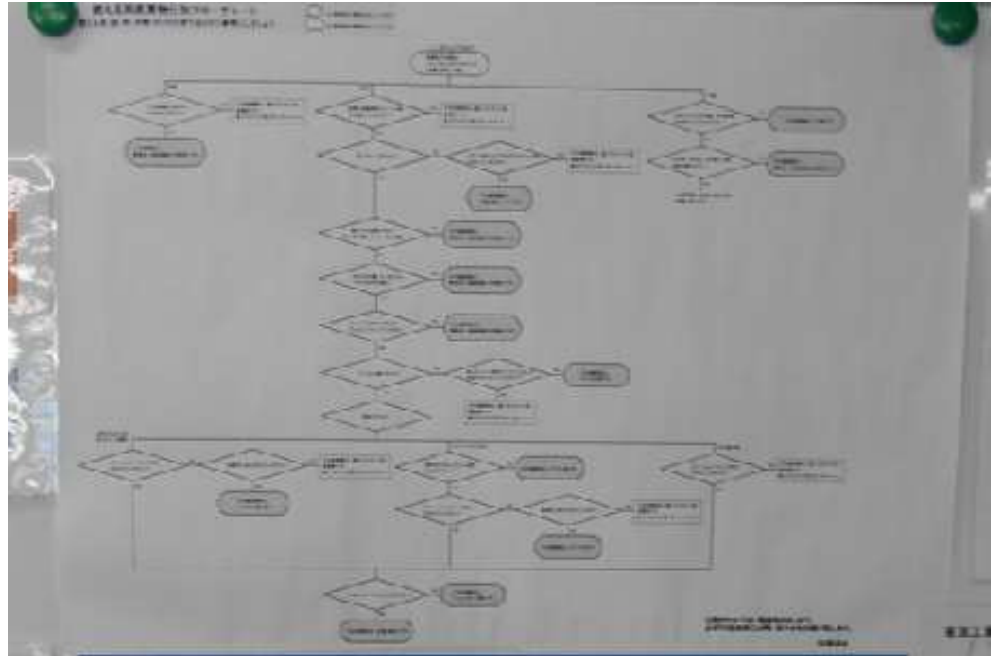


このフローチャートは、自分が今捨てようとしているものが、どの分別にあたるのかが分かるようにいくつかの質問を用意しています。

紙なのかビニールなのか、汚れはあるのかないのか、金属片が付いているのかいないのかなど、さまざまな質問に答えていくと、そのごみをどのごみ箱に入れたら良いかが分かります。



このフローチャートは、先ほどのボードに貼られており、ごみ箱の前に置いておくことで、捨てる前に確認することができます。



自分で捨てようとしているものの材質などを確認しながら分別することができるのですね。ごみ箱の上に貼ってある、写真やイラストの載っている紙はなんですか？



それはこのごみ箱に入れるごみで、よく出る種類を載せています。
文字だけではなく、イラストや写真を載せて一目でわかるようにしています。
またそれらがリサイクルできるものなのか、お金を払って処分していただいているのかなどの
情報も一緒に載せ、少しでもリサイクル意識の向上に繋がればと考えています。



イラストや写真で出ていると、とてもわかりやすいですね。



りーちゃんも、分別を体験しました。
たくさんごみ箱が並んでいても、どこに入れたら良いかが
一目でわかるようになっていたので、間違えずに分別できました。

さらに私たちは分別した後のごみについてもある工夫をしています。
りーちゃん、この2つの袋を見てください。



どちらの袋にも似たようなビニールが入っていますね。

そうなんです。ぱっと見たただけだとどちらが何のビニールかとてもわかりづらいのです。
皆さんがしっかりと分別をしていただいたのに、間違って別の集積所へ運ばれてしまえば、
リサイクルされずにごみになってしまう危険があります。
そこでごみ袋にそれぞれ色分けしたシールを貼って、皆さんが頑張って分別したものを間違
えずに集積所に運べるようにしました。



分別で終わりにせず、そのあとのケアまでしっかりと行って、素晴らしい取り組みです
ね。

具体的な取り組み その3 全員参加の研修

ここまでで、従業員全員の意識を揃えること。そして取り組みやすい仕組みを整えることをお話いたしました。

でもこれだけではまだ足りないと思い、全員が参加する研修を実施いたしました。分別についてゲーム感覚での実践や、ごみの減量やリサイクルすることでのメリットをお話することで意識の向上につながったと思います。



ここまでしっかりとやってきたことが 98.8%という数字に表れているんですね。

他にもこんな取り組みをしています！！

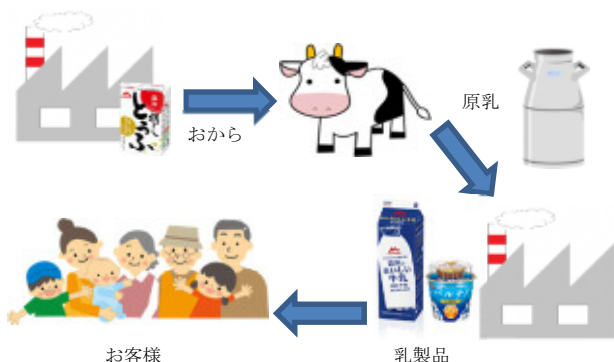
○紙パックのリサイクル



工場ではたくさんの紙パックが排出されますが、それをそのまま業者に渡すのではなく、きちんと自社で処理をしてお渡ししています。こうすることで1度により多くの紙パックを業者に渡すことができます。

※りーちゃんの後ろの機械で処理しています

○豆腐おからの飼料化



東京工場では豆腐も作っており、その際に出るおからが以前は産業廃棄物として処理をしていました。

しかしそのおからを利用し、乳牛への飼料としたのです。その飼料を食べて育った牛のミルクを森永乳業で製造している乳製品などに使用し、皆様のもとへお届けしています。

○使用済み紙パックの回収



東京工場の入り口に写真のような紙パック回収ボックスを置いています。従業員の方々が通勤のついでに紙パックを出していただけるとなっています。

資源の収集日以外にも出せるので好評です。

○紙すきハガキ講座



立石にあるかつしかエコライフプラザで毎年夏休みの時期に「紙すきハガキ講座」を実施していただいています。

子どもたちが自分の手で、牛乳パックをハガキに生まれ変わらせる体験を通して、資源の大切さなどを学んでいます。

今後の目標

今後は、今行っている取組みをみんなが当たり前できるように定着を図っていきたいと考えています。

また現在は廃棄しているごみをもう一度確認し、本当に資源にすることはできないかなどしっかりと見直しながら、さらなるごみの減量、リサイクル率の向上に取り組みたいです。



本日はどうもありがとうございました。

これからも葛飾のごみを減らすためにご協力よろしくお願いいたします。



今回取材しました森永乳業株式会社東京工場の従業員の方々にごみ減量の取組みについて聞いてみましたのでこちらでご紹介します。

- 分別の基準があいまいで、廃棄する際に困ることがあったが、フローチャートができてからは迷うことなく分別できるようになった。
- フローチャートが分かりやすく、より細かく分別できるようになった。
- 自身のごみ分別に対する意識が高まり、知識も向上した。
- 色付きテープにより、今までよりも廃棄物と有価物の違いを意識するようになった。

今回紹介した、分別のフローチャート、イラストや写真を載せた分別啓発はぜひ他の事業者様も参考にいただき、ごみの減量に役立てていただきたいと思います。